

# ペダルを踏んで まちへ出かけよう



クルマから自転車へ

皆さんは最近体を動かしていますか？よく話題になっている「メタボ」。正しくはメタボリック症候群といいますが、このムダな脂肪を燃焼させるには一日30分程度の有酸素運動が必要と言われています。そこでメタボ対策としてもおすすめるが自転車。通勤や通学、買い物に、そして週末にはちよつとしたレジャーなどに自転車でもできれば、マイペースで有酸素運動が可能となるのです。まさに、楽しみながら健康管理ができる身近なツールと言えるでしょう。

役割を担っているのです。「車社会」という言葉をよく耳にします。自動車、いわゆる「クルマ」は私たちの生活に欠かすことのできない大切な「足」ですが、その反面、交通渋滞や路上駐車による交通障害、排ガスや騒音による環境悪化など、さまざまな都市問題を引き起こす要因でもあります。そうした中、クルマから電車やバスなどの公共交通機関、そして自転車への利用の転換が求められてきています。市では、このような状況を踏まえ「自動車に過度に依存しない交通体系の実現に向けた取り組みを行っています。特集で紹介した「コミュニティバスも、その中の重要な位置づけのひとつとしています。」



まちで出会った60歳代のツーリストの方。娘さんに会いに桶川から来られたとか



さいたま新都心と氷川参道を結ぶ「ほこすぎ橋」をさわやかに駆けるスマイルバイシクルツアーの参加者たち

多く、とても快適な乗り心地を楽しんでいたようです。この日実施したアンケート調査では、電動アシスト自転車を度経験して、自転車そのものの魅力に触れたことから、その後の自転車の利用時間を今よりもっと増やしたいとする回答が多く得られました。このことから、ひとりでも多くの方に、「まずは実際に乗ってもらおう」ということがとても重要だといことがわかります。市では、事業のシミュレーションを行うとともに、安全面の追求や駐輪スペースの確保、盗難への対策など、さまざまな課題を整理し、さいたま市版「ベリブ（Velo）」と言えるこの事業の可能性についての研究を、今後も行っていく予定です。

## カーフリーデーが伝えること

「親子で参加しましたが、実に楽しいですね」参加者には子どもたちも多く、まちなかを走るの少し危ないところもありますが、係員の人が角々に立っていてくれるので安心して走れました「こう言って笑顔を見せるのはスマイルバイシクルツアーの参加者たち。」

この催しは、先ほどの話題でも触れました「エコ・カーフェア&カーフリーデー



スタンラリーもスマイルバイシクルツアーの思い出のひとつ



カーフリーデーでは電動アシスト自転車の試乗イベントが行われた



自転車は決められた場所に駐輪を。歩道や点字ブロックの上には置かないで!

「カーフリーデー」では、車に頼らなくても日常生活に大きな支障がないことを実感し、まちの環境や日々のライフスタイルについて、改めて考えることを大きなテーマとしています。この日実施した電動アシスト自転車の試乗イベントやスマイルバイシクルツアーなどでは、自転車で走ることの快適さ、すばらしさについて、多くの方が実感したことでしょう。さあ、皆さんもペダルを踏んでまちへ出かけてみませんか？風を切ってさわやかに走れば、クルマではなかなか見つけられない、素敵な発見があるかもしれません。でも安全運転で、交通事故にはくれぐれも注意を!



「ペダル」で快適なまちに

「Velo」(Velo)と「Liberte」(Liberte)という言葉をご存じでしょうか。フランス語の「Velo」(自転車)と「Liberte」(自由)という言葉を含ませたもので、パリのレンタサイクル事業のことです。市内各所に設けられたサイクルポートで料金を支払い、自転車を借りるという仕組みで、都市環境や健康にやさしい交通システムとして、市民生活に定着しているものです。すでに、ヨーロッパ各地でも広く普及しています。

そして、市では現在、「電動アシスト自転車レンタル事業」の将来的な導入の可能性について研究を始めました。慢性的な交通課題を抱える駅周辺に、電動アシスト自転車を貸し出す拠点を設け、自転車の利用を促進することで、都心部へのクルマの乗り入れを抑制しようというものです。

平成20年9月20日にJR大宮駅西口の鐘塚公園で行われた「エコ・カーフェア&カーフリーデー 2008」で、電動アシスト自転車の試乗イベントが行われました。ほとんどの方が初体験で、特にこぎ始めのスムーズさに驚かれていた方が



パリのまちなかでは、このようなサイクルポートが至るところに設置され、多くの市民が気軽に利用している

## 都市局からのお知らせ 地域の皆さんで取り組む防犯のまちづくり

### 「防犯診断ワークショップの手引」を作成しました

皆さんは、まちを防犯の視点で見たことがありますか。例えば、道路にゴミが捨ててあると、そこには、違う人がゴミを捨て、やがて、ゴミの山が出来てしまいます。このような場所(まち)では、ひったくりなどの犯罪が起りやすいと言われてしています。まちの防犯には、まちを清潔に保つことや、見通しの悪いところを改善するなど、犯罪が起りにくい環境をつくるのが大切です。このことから、地域の皆さんが、道路・公園・住宅などの各施設を防犯の視点から

点検するための「防犯診断ワークショップの手引」を作成しました。この手引書には、市内で起こった犯罪の地域別の特性や各施設の点検項目を、図などで分かりやすく解説し、点検チェックリストも付いていますので、まちに出てすぐに使えるものとなっています。ワークショップは、地域の課題を皆さんで発見し、解決するための有効な方法です。防犯に配慮した安心安全なまちづくりに、この手引書をぜひお役立てください。詳しくは都市総務課(☎829・1394)まで。



防犯診断ワークショップは、点検チェックリストで地域を点検し、地域の課題を解決するもの

## korekara 編集後記

今回の特集は、「一人にもまちにやさしい乗り物で環境に配慮したまちづくりに大切な役割を果たす「コミュニティバス」を取り上げました。いつもは車だけでなく、今日はバスに乗って出かけてみようかな。人も多くの方がそんな気持ちになっただけはうれしく思います。そして、まちの魅力を再発見する機会です。ぜひ、手に取り、読んでみてください。中野島山由樹